

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月10日

【四半期会計期間】 第17期第3四半期(自平成28年10月1日至平成28年12月31日)

【会社名】 パシフィックシステム株式会社

【英訳名】 PACIFIC SYSTEMS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 久保永史

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市桜区田島八丁目4番19号

【電話番号】 048(845)2200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員総合企画部長 杉山一彦

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市桜区田島八丁目4番19号

【電話番号】 048(845)2200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員総合企画部長 杉山一彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期 連結累計期間	第17期 第3四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	5,580,158	6,004,595	8,312,675
経常利益 (千円)	222,238	284,807	574,984
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	146,736	186,266	364,915
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	156,497	226,004	312,721
純資産額 (千円)	3,516,297	3,787,547	3,672,521
総資産額 (千円)	5,377,006	5,698,866	5,997,522
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	99.16	125.88	246.61
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	65.4	66.5	61.2

回次	第16期 第3四半期 連結会計期間	第17期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	77.20	81.55

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復傾向で推移したものの、アジア地域の景気の下振れリスクや欧米の政策に関する不確実性等を背景に、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属する情報サービス業界におきましては、ソフトウェア投資は横ばいとなりました。

このような状況のもと、当社グループは17中期経営計画（2015年度～2017年度）の基本方針に従って、主要事業の推進に取り組みました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、機器等販売、ソフトウェア開発、システム販売、システム運用・管理等で増加したため、6,004,595千円（前年同四半期と比べ7.6%増収）となりました。利益につきましても売上高の増加により、営業利益288,485千円（同36.6%増益）、経常利益284,807千円（同28.2%増益）、親会社株主に帰属する四半期純利益186,266千円（同26.9%増益）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりです。

機器等販売

売上高は機器販売及びメーカー保守が増加し、1,107,654千円（前年同四半期と比べ18.7%増収）となりました。セグメント損益は売上高の増加により、14,453千円の利益(同45.1%増益)となりました。

ソフトウェア開発

売上高は前年度よりずれ込んだ案件があったこと等により、948,595千円（同9.4%増収）となりました。セグメント損益は売上高の増加により、148,150千円の利益(同10.5%増益)となりました。

システム販売

売上高は画像処理システム及びインフラシステム等が増加したことにより、1,712,804千円（同7.3%増収）となりました。セグメント損益は売上高の増加及び販売費の減少により、166,859千円の利益(同47.6%増益)となりました。

システム運用・管理等

売上高はデータセンタ業務等の増加により2,235,540千円（同2.4%増収）となりました。セグメント損益は売上高の増加により、648,094千円の利益(同5.3%増益)となりました。

(2)財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて12.4%減少し、3,283,139千円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が613,742千円減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて7.3%増加し、2,415,727千円となりました。これは、主に無形固定資産が108,682千円増加したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて5.0%減少し、5,698,866千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて24.0%減少し、1,484,780千円となりました。これは、主に買掛金が182,973千円、賞与引当金が152,468千円、未払法人税等が114,544千円減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて15.2%増加し、426,538千円となりました。これは、主に固定負債その他に含まれているリース債務(固定)が31,243千円、固定負債その他に含まれている繰延税金負債(固定)が16,746千円増加したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて17.8%減少し、1,911,319千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.1%増加し、3,787,547千円となりました。これは、主に株主配当金の支払が110,978千円あったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を186,266千円計上したことによります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は20,349千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,920,000
計	5,920,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,480,000	1,480,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は 100株であります。
計	1,480,000	1,480,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年12月31日		1,480		777,875		235,872

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,479,600	14,796	
単元未満株式	普通株式 200		
発行済株式総数	1,480,000		
総株主の議決権		14,796	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式87株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) パシフィックシステム(株)	埼玉県さいたま市桜区 田島八丁目4番19号	200		200	0.01
計		200		200	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	786,579	661,905
受取手形及び売掛金	1 1,786,866	1 1,173,124
リース投資資産	439,537	444,703
商品及び製品	104,203	94,817
仕掛品	333,385	598,944
原材料及び貯蔵品	28,100	34,939
その他	268,866	275,637
貸倒引当金	1,687	933
流動資産合計	3,745,851	3,283,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	696,075	667,737
土地	532,744	532,744
その他（純額）	388,524	414,579
有形固定資産合計	1,617,344	1,615,061
無形固定資産	220,369	329,051
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	184,550	190,358
その他	233,649	308,910
貸倒引当金	4,242	27,654
投資その他の資産合計	413,956	471,614
固定資産合計	2,251,670	2,415,727
資産合計	5,997,522	5,698,866
負債の部		
流動負債		
買掛金	665,387	482,414
1年内返済予定の長期借入金	3,294	-
未払費用	233,069	278,586
未払法人税等	155,872	41,328
賞与引当金	304,746	152,277
受注損失引当金	8,526	3,633
アフターコスト引当金	36,060	31,861
その他	547,861	494,679
流動負債合計	1,954,818	1,484,780
固定負債	370,182	426,538
負債合計	2,325,000	1,911,319

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	777,875	777,875
資本剰余金	239,946	239,946
利益剰余金	2,663,259	2,738,547
自己株式	462	462
株主資本合計	3,680,618	3,755,906
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70,393	104,484
退職給付に係る調整累計額	78,490	72,843
その他の包括利益累計額合計	8,096	31,641
純資産合計	3,672,521	3,787,547
負債純資産合計	5,997,522	5,698,866

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	5,580,158	6,004,595
売上原価	4,302,209	4,571,267
売上総利益	1,277,948	1,433,327
販売費及び一般管理費	1,066,747	1,144,841
営業利益	211,201	288,485
営業外収益		
受取利息	121	17
受取配当金	4,056	4,418
受取手数料	1,587	1,547
受取保険料	478	643
補助金収入	13,539	9,129
その他	1,536	1,706
営業外収益合計	21,318	17,462
営業外費用		
支払利息	1,566	1,208
売上割引	3,232	3,108
和解金	3,127	-
貸倒引当金繰入額	-	15,000
その他	2,356	1,824
営業外費用合計	10,282	21,141
経常利益	222,238	284,807
特別損失		
固定資産除却損	58	878
特別損失合計	58	878
税金等調整前四半期純利益	222,179	283,928
法人税等	75,442	97,661
四半期純利益	146,736	186,266
親会社株主に帰属する四半期純利益	146,736	186,266

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	146,736	186,266
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,466	34,090
退職給付に係る調整額	2,294	5,647
その他の包括利益合計	9,760	39,737
四半期包括利益	156,497	226,004
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	156,497	226,004
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	- 千円	20,219千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	236,125千円	239,632千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	96,186	65	平成27年3月31日	平成27年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	110,978	75	平成28年3月31日	平成28年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	機器等販売	ソフトウェア 開発	システム 販売	システム運 用・管理等	計		
売上高							
外部顧客への売上高	933,173	867,082	1,596,175	2,183,727	5,580,158		5,580,158
セグメント間の内部売上高 又は振替高	33	5,799	9,502	10,108	25,443	25,443	
計	933,206	872,881	1,605,678	2,193,836	5,605,601	25,443	5,580,158
セグメント利益	9,964	134,088	113,043	615,329	872,425	661,224	211,201

(注)1 セグメント利益の調整額 661,224千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	機器等販売	ソフトウェア 開発	システム 販売	システム運 用・管理等	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,107,654	948,595	1,712,804	2,235,540	6,004,595		6,004,595
セグメント間の内部売上高 又は振替高	80	8,702	806	31,215	40,804	40,804	
計	1,107,734	957,297	1,713,610	2,266,756	6,045,399	40,804	6,004,595
セグメント利益	14,453	148,150	166,859	648,094	977,558	689,072	288,485

(注)1 セグメント利益の調整額 689,072千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	99円16銭	125円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	146,736	186,266
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	146,736	186,266
普通株式の期中平均株式数(株)	1,479,741	1,479,713

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月10日

パシフィックシステム株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 靖 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 関根 義明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパシフィックシステム株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パシフィックシステム株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。